

3) 事業3 ふれあい体験活動

5月24日(木) 平成12年度フレンドシップ事業の紹介(マイクロティーチング室)

「ふれあい体験活動」(美術科)と「ふれあい社会科体験活動」(社会科)

5月31日(木) 実行委員4名第三大成小学校実地調査

6月7日(木) ~ ふれあい活動のタイムテーブル作成

6月14日(木) 活動の例示と活動案記入用紙の提示

6月28日(木) 活動概略のまとめ。千田雅美先生に助言と指導を受けた。

6月下旬 資材(教材)の調達と注文

7月16日(月) 第1回ふれあい活動(学生7名参加)

7月19日(木) ふれあい体験活動計画素案の発表(各班)

第三大成小学校 佐藤昭

教務主任参加

夏休み期間 各班で集合し製作などの活動

9月5日(土) 第2回ふれあい活動(25日のPR)

9月25日(火) ふれあい体験活動(主活動)

予備活動

予備活動では、生活科45分の授業を使って、子どもとふれあい、9月25日の主活動の宣伝を行った。



中間発表



第1回ふれあい活動

<7月16日>

時間	活動の流れ	役割
10:05	体育館集合(1・2年児童)	進行 佐藤先生
10:10	フレンドシップ事業について 学生の(11人)自己紹介	校長 学生
	学生のみなさんとジャンケンジェンカを踊ろう	進行 佐藤先生
10:30	作って遊ぼう(紙ひこうき) 学生が中心になって活動を展開する	学生
10:45	児童の感想発表 後始末	進行 佐藤先生
10:50	おわりのあいさつ	佐藤先生

8月下旬の事前顔合わせ会、9月のフレンドシップ事業本番を前に、学生は、3グループに分かれ活動計画や内容の検討をしている。

ただ、児童と触れ合う機会がないため、イメージが湧かないでいる。

今回の1・2年生とのふれあい活動を通して、より児童の側に立った計画や内容が検討され、本番を迎えることが期待できる。

<9月5日>

時間	活動の流れ	役割
10:30	体育館集合(1・2年児童) 学生代表の挨拶と自己紹介(26名)	進行 学生
10:40	学生のみなさんとレクリエーションをしよう(猛獣狩り)	
10:55	ポスターを使って遊びの紹介	学生
11:10	児童の感想発表	進行
10:15	おわりのあいさつ	学生(複数)

終了後、25日に向けたミーティングを行う。場所等の確認を行う。

7月16日のふれあいでは7名の学生が参加した。今回は9月25日の本活動に参加する学生の大部分が子どもと顔あわせを行うことができる。遊びの紹介をして、子どもに期待を持たせたい。

前回のふれあいの経験やその後の話し合いを通して、25日には夜店形式で遊ぶことになった。学生は子どもとともに夜店を移動し、保護者も加わって遊ぶ。

主活動

<9月25日>

時間	活動の流れ	役割
9:00	体育館集合(1・2年児童)	
9:10	開会式 ・校長挨拶 ・学生代表挨拶	進行 高橋一 中村久美子
9:20	レクリエーション(手遊び)	進行 弥延浩史
9:35	主活動(中庭、体育館、校庭)	
11:55	閉会式	進行 高橋一
12:00	・児童の感想	佐藤沙織
12:15	・児童一人一人と握手によるお別れ	
12:45	給食参加 後始末	

<校庭>

- ・魚釣り.....裏に点数を書いた紙の魚にクリップをつけ、磁石をつけた釣竿でつり、点数を競うもの。一人1分。途中でつり大会を催す。
 - ・動物倒し.....表に動物の絵、裏に点数を描いたダンボールの紙に玉を当て、合計の点数を競うもの。一人5球。
 - ・輪投げ.....椅子を逆さにして棒代わりにし、距離によって点数を変え、合計点を競う。一人5回。
 - ・びゅんびゅんゴマ...円形の厚紙に絵を描き、真ん中に糸を通したものを作ってもら。変形自由。
 - ・お絵かきコーナー...大きな紙に自由に絵を書いてもらう。画材自由。
- *ゲームを1つでも遊んだ際、参加賞としてメダルをプレゼントする。メダルの裏は点数、ゲーム名を書き、記録カードとしても用いる。

*動物倒し、輪投げの高得点者には、賞状を与える。

<中庭>

- ・空き缶ロケット.....学生が空き缶に輪ゴムをつけた物を用意し、児童がそれに自由に飾り付けをする。学生が張っておいた糸に輪ゴムを引っ掛け、ロケットを飛ばす。
- ・飛行機着陸ゲーム...折り紙で紙飛行機を作る。それを的に向かって飛ばし、うまく着陸させられるかどうかを競う。
- ・ボーリング.....空ペットボトルに好きなように飾り付けしたものをピンとし、ドッジボールの球で倒して遊ぶ。
- ・ストラックアウト...各自で新聞紙をガムテープで巻き、ボールを作る。的に投げ当てた数を競う。1人4～5球。

<体育館>

- ・紙飛行機祭.....各自作成場所で紙を組み立てて飛行機を作ってもらい、ステージ上で飛ばして距離を競う。カードに記録し、途中で記録会を催す。

各グループが使用した資材

グループ	品名	数	
1	たこ糸 100 ^丸	3	
	スズランテープ	1	
	画用紙 四つ切り 厚口	30	
	画用紙 四つ切り	10	
	色画用紙 四つ切り	5	
	マグネットシート 青	4	
	マグネットシート 白	4	
	マグネットシート 緑	4	
	マグネットシート 赤	4	
	マグネットシート 黄	4	
	布テープ	3	
	セロテープ	5	
	賞状用紙 B6	20	
	ユニポスカ 中字	12	
	模造紙 白	3	
	折り紙 24枚入り	21	
	2	製図用ケント紙	110
		ゼムクリップ 小	4
		輪ゴム 100グラム	2
		水性サインペン 12色	2
ハサミ		40	
のり		20	
スズランテープ 赤		1	
色画用紙 四つ切り		25	
3		色模造紙 中厚	20
		セロテープ	8

	クラフトテープ	5
	ビニールテープ 青	3
	ビニールテープ 緑	3
	ビニールテープ 赤	3
	折り紙	8
	ゼムクリップ 大	2
	ボール紙 白 四つ切り	35
	たこ糸 100 ^本	3
	油性マーカー 細字	10
	スズランテープ	1

工夫した遊びのポスター

第1グループ(図1)

- ・催し物の内容が絵にも表れている。
- ・カラフルなところが子どもの興味関心を引く。
- ・絵の中に文字をかくところが学級新聞などを思わせるので、子どもに受ける。

第2グループ(図2)

- ・子どもに人気のあるキャラクターを用いている。
- ・本物の紙飛行機を使用している。
- ・催し物のタイトルや場所を目立つようにわかりやすく書いている。

第3グループ(図3、図4)

- ・各種目ごとにポスターを作製している(図3、図4以外にもボーリングと空き缶飛行機のポスターを作製)。
- ・子どもに人気のあるキャラクターを使用している。
- ・催し物のタイトルを目立つように工夫している。

「校庭」班(第1グループ)

班員：有馬智春 小倉尚子 鈴木紘美 高橋 一
千葉弥生 中村久美子 前田千穂
町平めぐみ 弥延浩史



感想のまとめ

- ・諸先生方の受け入れ体制が本当にありがたかった。
- ・臨機応変に動くことを学んだ。
- ・言葉、動作、その他様々なところに一人一人の性格がにじみ出ていて、とてもおもしろかった。
- ・このような活動から得ることのできる体験は教職を目指す人にとって、ものすごく貴重なもの
あと思った。
- ・あっという間の3時間であったため、児童に満足してもらえたか不安だが、活動中の子ども達の顔は輝いて見えたので本当によかった。

- ・こういう活動をこれから多く積み重ね、自分の体験として大事にしていきたいと思った。
- ・当初はうまくいかないのではないかと思ったが、結果は怪我も無く、楽しく遊ぶことができ、大成功であったと思う。
- ・当初、学生の大部分は楽しませることを第一に考えていたが、まず第一に危険予測を
考える必要があった。
- ・発見できたこと、喜ばされたことが多かった。
- ・最後にみんなと握手ができ、みんなの体温を直に感じることができ、とてもうれしかった。
- ・各グループ、工夫したものが作れてよかった。
- ・今回の活動を終えて、自分の中に変化がうまれた。
- ・子ども達と直にふれあうことができ、また一緒にごはんを食べたりして楽しかった。
- ・準備が大変だった分、当日の子どもの楽しんでいる表情を見て、やりがいのある活動であったと感じた。



「体育館」班(第2グループ)

班長：佐藤沙織 会津聡子 安倍奈津子 小山内聡子 加藤麻由子 佐藤 圭
早乙女和代 平岡 史

感想

- ・私たちの企画した紙飛行機は、小学校1,2年生にはやや難しかったようだ。
- ・子どもの能力がどのくらいなのかわからなかったり、学生側の指導の仕方、安全性・耐久性を考慮した素材選び、子ども達の興味・関心をどのように引き出すかなど課題が多かった。
- ・様々なことを予想して準備したが、子どもと接して実際にやってみなければわからないことがたくさんあった。
- ・うまくできない子どもにどこまでアドバイスをしたらよいのか悩んだ。
- ・記録を計るためのラインはスズランテープだと足が引っかかり危なかったため、ビニールテープ等を使用すべきだった。
- ・スタッフの人数の少なさを飛行機作成の説明の時に痛感した。
- ・私達がこの企画で成長したように、子ども達にもなんらかの影響を与えていけばよいと思う。
- ・「先生」と呼ばれるのがうれしい反面、照れくさかった。
- ・最初は子ども達とうまく接することができず不安だったが、みんなで話し合い、先生方



完成した飛行機で動き回る子どもたち

のアドバイスを受け、よい活動になったと思う。

- ・子ども達の発達の個人差に驚いたが、このようなことは現場でないとわからないと思った。
- ・手作りの「記録カード」をプレゼントすると喜んでくれたので、子どものために何かをすることは楽しかった。
- ・今回子ども達と実際にふれあって、早く一人前の教師として、子どもと向き合いたいと思った。
- ・どうすれば子どもが喜んでくれるかが難しく苦労したが、最後には充実感へと変化した。

「中庭」班(第3グループ)

班長：竹内麻希子 秋山太一 井上可奈子 工藤静恵 倉内貞行 古山麻美 高橋恵美
横嶋園江 小笠原芳恵

感想

- ・子どもと触れ合うことの楽しさを知ることができた。
- ・元気な子どもと一緒に楽しむことができ、大変有意義であった。
- ・さまざまな企画を考えたが、準備不足の部分も多くあった。
- ・子どもを身近に感じられる気がするので、教育学部全ての人に経験してほしい。
- ・活動が成功したのは、子どもの立場に立って考え、何度も話し合いを重ねて準備したからである。
- ・授業でも活動でも、生きているものを相手に行う際、起こりうる反応を考え、念入りな計画を立てなければならない。
- ・子どもたちが生き生きしていて、本当にやってよかったなと思った。
- ・お別れのときの子どもたちの笑顔が印象的だった。
- ・私たち学生は、児童たちにとっては先生である。児童の目、耳は先生たちのことをしっかりと観察し、何かしらの期待を抱いている。
- ・児童は想像以上に自立している。
- ・活動に対する達成感ももちろんあるが、それよりも子どもたちからたくさんの発見をもたらしたことのほうが自分の中では大きい。
- ・学生が元気でなければ子どもは反応しないと感じた。
- ・積極的に学び、人との話し方の工夫ができる学生でありたいと思った。
- ・来年以降の特別活動実習も、「学生が主体的に」という姿勢を崩してほしくない。
- ・子どもたちがあまりに元気で自由に動き回ることに初めはとまどってしまった。
- ・小学校教師の大変さに気づかされた。しかし、とてもやりがいがあり、教師になりたいという気持ちが強まった。
- ・教師は、子どもが安全に学校生活を営むことができるように心がけなければならないと思った。
- ・班の学生の人数が足りなかった。
- ・遊びながら、子どもたちの中に助け合う気持ちが見られてよかった。



ペットボトルをボーリングのピンに使いました。
みんなでお絵かきです

- ・子どもたちを待たせるとすぐ不満を持ち始めることがわかった。
- ・自分自身の体力のなさを感じた。
- ・子どもたちが順番のことでけんかしていたとき、どう対処したらよいかわからなかった。



帰り際、自然と子どもと握手することになりました。「また来るよ！」と約束しました。